

発行 中央大学学会「白門50会」支部
 編集 広報部会 外村幸雄(法・政治) 山下史雄(法・政治)
 投稿/連絡 山下史雄 E-mail: grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
 ※投稿は電子メールで。電子メールの写真は、jpeg でお願いします。

日本列島 自転車ひと旅



広々とした畑と十勝の山並みを背に＝平成23年9月9日、北海道・富良野で

人、動物、ハプニングとの出会い

東北、北海道、西日本を走破———文・渡辺健司

先日私は、定年退職にともない、かねてから考えていた国内自転車旅行をしました。その経緯と経過を報告します。

きっかけは、会社勤めの最後の5年は毎年夏に3泊4日の自転車旅行をしていたこと、「この調子でいけば日本一周も夢ではないな」と思い始めたことです。そこで、8月は東北旅行に行ってきました。次に9月に北海道、11月から12月にかけて西日本を旅行しました。自転車にテント、シュラフ、炊事道具等の荷物を付けての長旅です。

まず、東北旅行では、三国峠を越えました。炎天下の山中を走り続けてやっと辿り着いた喜多方の旅館の旦那がとても元気でおもしろいひとだったこと、秋田と青森の県境白神山地の海岸沿いのキャンプ地で熊に出くわしたことが思い深い出来事です。また、サーフボード、キャンプ道具をリヤカーに積んで自転車で日本一周している人がいました。良い波を見つけると乗るのです。この東北行きは、そのまま北海道に渡ってしまうことを予定していましたが、夏の暑さもあり、新青森で続行を断念しました。荷物は宅配便で送り、自転車は輸行袋に詰めて、新幹線で帰ってきました。

次に北海道旅行では最初からつまずきました。思っていたより距離があり、大洗 18 時出発のフェリーに間に合わずに翌日の深夜 1 時発に乗らなければならなかったことに始まり、9月の北海道は台風の影響で雨が多く、天候には悩まされました。幸い、ヒグマには出会わなかったのよかったですのですが、反対に、鹿、キツネ、白鳥等おとなしい動物には何回となく出会いました。＝2面上段に続く

聖徳太子ゆかりの「斑鳩」を訪ねて

先日、久しぶりに出張に便乗して奈良を訪ねてみた。何度か来てはいるが、いつもはさっさと日帰りか大阪や京都に宿泊して、奈良でゆっくりと見物をするとはなかった。先年の「遷都 1300 年」と宣伝された騒ぎが落ち着いたところを見計らっての訪問である。十分な日数があれば、あれもこれもと見て廻れるところだが、小半日しか時間を取っておらず、訪問先を斑鳩に絞った。なぜ、斑鳩か、遷都 1300 年は飛鳥・平城京ではないかと問われたなら、やはり、まずは聖徳太子でしょう、初期仏教文化でしょうと。その後、天智天皇や天武天皇に所縁のところかなあ、と思い巡らせての斑鳩訪問であった。

文・北崎邦彦



法隆寺の拝観券

平城遷都1300年に敢えて

聖徳太子と我々は当然のように呼んでいるが、ご本人は、自分が聖徳太子と呼ばれているのをご存知ないようである。存命の頃は厩戸皇子(うまやどのみこ)と呼ばれていた。また、父の用命天皇が建てた上宮(かみつみや)に皇太子になってからもずーっと住んでいたようなので、それに由来して、上宮太子聖徳皇と言う名前だったようで、太子が建立した7大寺院の一つである法起寺塔露盤銘に記されている。＝2面下段に続く

道路わきの奇岩。異様な雰囲気がおもしろい
＝平成 23 年 11 月 27 日、紀伊半島・串本近くで



＝1 面左「自転車の旅」から続く

北海道は、自転車、バイクで旅行している学生等が多く、キャンプ地等では彼らと親しく交歓しました。私と同じように定年退職し自転車で旅行しているという人に 2 人、会いました。1 人は小田原の人で、キャンプしながらのツーリングは初めてという方、モバイルのパソコンを持ち新品の自転車に乗って楽しそうでした。ちょっと荷物の持ちすぎかなとも思いました。

もう 1 人は八王子の人で、小学校の図工の先生をしていた方でした。奥さんと大学生の娘には旅行に出かけることに反対されましたが、制止を振り切って出かけてきたようです。電動アシストの自転車にキャンプ用品を積んで半年ぐらい回る予定とのこと、アイヌの資料を集めて絵本をつくるためと言っていました。今世紀中に発刊の予定だそうです。

最後に、西日本旅行は涼しくなってからなので比較

強風や雨中の立ち退きも…雄大な景色に励まされ

的快適でした。しかし、御前崎から浜松に向かっていく時、真正面からの強風が一日中続き疲労困ぱいでした。突風で数回転びました。両サイドにつけている荷物が道路わきの何かに接触するとハンドルを取られ転倒してしまうのです。おかげで、数日間は膝の痛みが残りました。その後、渥美半島から鳥羽に渡り、紀伊半島を一回りして、和歌山から徳島に渡りました。紀伊半島の大きさには驚きました。鳥羽から和歌山まで、坂が多いこともあり 9 日かかりました。新鮮な魚が安く買えるので、よく焼いて食べました。途中、那智山に寄り、白浜、白崎等にも寄ってきました。とてもきれいで良いところでした。

四国は、うどんが美味しく毎日行く先々で食しました。徳島から愛媛に行く途中テントで寝っていると警官が 3 人来て立ち退きを要求されました。土地の人に教えられキャンプしていたのですが、そこは私有地だったのです。警官が私の免許証を見てしっかり写し取っていました。きっと、私の名前は徳島県警のブラックリストに載ったと思います。夜中それも小雨の中でテントを畳んでの移動はつらいものがありました。また、四国はお遍路さんに良く行きあい、興味深かったのは四国独立をとる人がありました。最後は愛媛県今治から広島県尾道までの“しまなみ海道”を渡って帰ってきました。この時の瀬戸内海に浮かぶ島々の景観は忘れられません。前日までの雨模様の天気が、この二日間は晴天に恵まれました。

以上、これまでの自転車旅行ダイジェストです。日本国中、雄大な景色はいたるところにあり、住んでいる人たちは親切でおおらか、国土の広さ等、実感しました。残ってしまった九州その他は、暖かくなったら出かけたいと思っています。(完)

謎多い法隆寺、焼失説も再建の記録なく

＝1 面「斑鳩」から続く

これは 706 年に作られたものとされているから、720 年に編纂された「日本書紀」よりも古い記述である。それで、この上宮聖徳皇から、一般に聖徳太子と呼ばれるようになったらしい。ただ、この上宮には聖徳太子に纏わる建物は、今は何も残っていないのである。となると、当然のように、法隆寺となる。607 年に父の用命天皇の菩提を弔うために百濟から招いた工匠によって建てられた現存する唯一の飛鳥時代の建造物である。話は少々逸れるが、この百濟からの工匠たちの中に金剛重光と言う人物が居て、この人物が起こした企業が今も存続しており、わが国で最も古い会社「金剛組」で、その 1400 年もの長い歴史の企業に敬意を払うものである。話を元へ戻して、斑鳩へと向った。奈良の中心部からは少し離れていて、JR 関西本線では奈良から 3 つ目の「法隆寺」駅が最寄りである。当時としては、かなり離れた場所であり、馬で通ったとも言われているが、相当な時間が掛かったはずである。では、何故にこんなに離れた所に居たかと言うと、聖徳太子が伯母である推古天皇に疎まれたとか、大叔父である時の最高権力者の大臣・蘇我馬子とのそりが合わなかったとの説もあるし、また、遣隋使を送った時、天皇が女性（推古）では隋に野蛮国と見なされるから、例の「日出処の天子より…」と、あ

たかも自分が天皇の様に親書に書いた訳で、その隋から返使が来れば、飛鳥には推古天皇が居て自評価を下げるので、斑鳩に都のような宮を建てて住んだとも言われ、諸説がある。で、当時政治の中心の飛鳥から遠い位置に居たとも。ただ、一番愛した妃の膳部大郎女（かしのわでのおおいらつめ）の実家のそばに住んだと言う説もあり本当のところは何なのか、謎のようだ。謎なのは法隆寺そのものも謎の多い寺院である。日本書紀には、天智天皇の 9 年頃に、落雷で全焼したと記載されている。しかし、それ以降いかなる文献にも、再建されたと言う記録がない。なのに、法隆寺は現存し、747 年に出された「法隆寺伽藍縁起評流記資材帳」に資材目録が残っているので、その時点には建立されていた訳で、まことに不思議な寺院である。斑鳩寺と呼ばれる法隆寺は実に広い。東院伽藍・西院伽藍からなっており、合計の面積は 18 万 7 千平方メートルで、当時は、三町四面、方一丈を寺院としたと言われており、本当に広い。資料によれば、国宝が建造物で 18 建屋と美術工芸品で 20 品もあり、重文は多数で、数えきれない。西院伽藍は上記した用命天皇の菩提寺で、東院伽藍側は聖徳太子の住居跡に伝法堂、舍利殿、夢殿などの 10 棟が建てられていたことが戦前や 1982 年の発掘で判明している。法隆寺駅から徒歩で約 20 分で西院伽藍に着く。南大門から入り、進んで行くと、梵語の阿（あ＝口を開いた）と吽（うん＝口を閉じた）の凄い形相の 2 体の仁王のいる中門が

釈迦三尊像にも尽きぬ興味、あちらこちらに飛鳥のロマン

見える。その奥の右に金堂、中央奥に講堂、そして、左側に五重塔が配されている。ご存知の「阿吽の呼吸」とはこの2像から出た言葉で、もう一つ、ことの始めと終わり、すなはち、生と死の意味もある、意外に知らない。この中門も少々珍しく、真ん中に柱があり、入り口が左右二つに分かれて、柱間が偶数になっている。これは、聖徳太子一族の怨霊を封じ込めるための門（かんぬき）だとする説もある。多分に、高句麗建築方式は金堂と五重塔が左右に分かれているので、二つの入り口になっていて、法隆寺もこれに倣ったものであろう。ただ、飛鳥時代の建築物は、百濟方式が多く、門から金堂、塔、講堂が縦一列に並んでいるので、門は奇数の柱でなっているから違和感を覚えるのかも知れない。流石の広さに圧倒されながら、参拝券を購入し西院伽藍の中へ。まずは、すぐ目の前にある「五重塔」。中央の地下約3メートルにある塔の心礎（心柱の礎石）にガラス製の瓶に仏舎利が埋納されていると言われるが、仏舎利は入っていなかったとの噂が定説となっている。高さは32.5メートルの5層で、最上層は第1層のちょうど半分の面積に設計されている塔婆である。内部への立ち入りは禁止であるが、内部を覗くことが出来て、東面に維摩方丈（ゆいまほうじょう）、南面に弥勒浄土（みりくじょうど）、西面に舍利供養（しゃりくよう）、北面に釈尊涅槃（しゃくそんねは）の情景が展開している。特に、北面には入定間近かの釈迦の周りを弟子達が囲み、今生の別れを惜しむ様子を模した塑像が名場面を作り出している。それぞれ、釈迦にまつわる重要な場面を表現したようなパノラマである。

次に、入母屋造りの「金堂」に入る。現存の世界最古の木造建築で、ユネスコの世界遺産に登録されているのも当然で、見事な建物である。そこにはご本尊であるアルカイックスマイルの釈迦三尊像（聖徳太子等身=621年太子の病氣回復を願って作成、止利仏師作と光背に銘文が刻まれている）を中心に左に父・用明天皇のために作られた阿弥陀如来と、右に母・穴穂部間人皇后のための薬師如来像が配置されている。普通なら、これら3像のうち1体だけでも十分にご本尊になり得るのに、なぜか、3体も一緒に？また、この薬師如来像にも銘文があり、太子が父・用明天皇の遺志によって、607年に作ったとされる。であれば、薬師如来像が本来のご本尊で、現在中央にある釈迦三尊像はご本尊に取って代わったのか？また、阿弥陀如来像は藤原時代に盗まれて、その100年後に新たに作ったと銘文にはあるそうで、これも疑問だ。また、天智天皇時代に法隆寺が焼け落ちたとなっており、一番古い薬師如来像はなぜに焼けてはいないのか、銘文がある以上は、本物であるだろうから。また、587年聖徳太子が14歳の時に起った物部氏との合戦で、太子が戦勝祈願したとされる四天王、すなはち、西方の広目天、北方の多聞天、南方の増長天、は在るが、しかし何故か東方の持国天だけがない。その他に、毘沙門天、吉祥天などの仏像が安置されている。何と沢山の仏像が一堂に納められていることか、この窮屈さも謎である。この中で、仏像に目を奪われてしまっているのは各壁にある壁画を見損ねてしまいそうである。釈迦・阿弥陀・弥勒・薬師の浄土が描かれている。素晴らしい内部ではあるが1400年の年月によるのであろう、くすんで

いるが、それも重みを感じさせてくれる。

西院伽藍を出、東院伽藍へ向かう手前に宝蔵院がある。ここは平成10年に建設されたもので、百濟観音像が展示されている。この木造の八頭身ですらりとしたその姿は神々しさを感じさせられ、右手は下げ、左手には水瓶を持ち、蓮の台座に起立したまま何かを伝えているような、魅了されない人はいないであろう。当然のように、国宝である。しかし、作者は不明だし、作風は他の仏像と違うところから、他の寺院から移されたものとする節が有力である。明治では、「虚空蔵菩薩」と呼ばれていたようで、法隆寺宝物目録には「朝鮮風観音」と記載されたことから、大正6年発行の「法隆寺大鏡」で初めて、「百濟観音」とされたようで、その名前そのものは新しい。であろうと、興福寺の「阿修羅像」と並び、奈良のみならず日本のすべての仏像の最高傑作ではないだろうか。

百濟観音の余韻を引きながら、東院伽藍側へ。東院への道は長い。法隆寺の広さをここでも感じさせられる長さである。ここには八角円堂夢殿があり、太子の等身像とされる救世観音像が安置されている。屋根の上には宝珠を掲げてあり、鳳凰が羽を広げたような姿に作られている。本来、この東院側は法隆寺の外だとされている。すなわち、山背大兄皇子一族が殺された後、聖徳太子を追慕した行信僧都が太子の塔婆として、この夢殿を建立したと言われている。だが、十分疲れる距離であり、法隆寺を見終われば、一目散に帰るところだろうが、ここまで来ておいて、そばにある3寺院を見ずに帰るのはもったいない。それは、中宮寺、法輪寺と法起寺だ。

中宮寺には、太子の没後、妃の一人である橘大郎女（たちばなのおおいらつめ=推古天皇の孫で、太子の正妻貝蛸皇女の姪）が太子の極楽浄土に行かれることを祈念し作ったとされる、「天寿国曼荼羅繡帳（てんじゅこくまんだらしゅうちょう）」のレプリカが展示されている。火事に遭い、一部（四分の一程度らしい）しか残っていないが、素晴らしい刺繍であり、あの時代の人たちの想う極楽が思い伺わせるもので、実物は2メートル×4メートルの2枚で構成されていたらしく、今は、奈良国立博物館に収蔵されている。この繡帳は聖徳太子が、仏を崇めて言っておられた「世間虚仮、唯仏是真（せけんこけ、ゆいぶつぜしん=この世はかりそめ、仏こそ真）」を、妃が図案化したようで、高松塚古墳で発見された壁画の図柄とそっくりである。この寺の別称は斑鳩尼寺で、東院伽藍のすぐ北側にある。元々は、太子の母・穴穂部間人皇后の住居跡で、聖徳太子が創建したとされている。また、その先にある、法輪寺は太子の息子であり、蘇我馬子の孫の蘇我入鹿（大化の改新の中大兄皇子に殺された）に殺された、山背大兄皇子が建立したお寺で、ここは別称を三井寺と言い、三つの井戸があったことから、その名が付き、今もその1つの井戸が残っている。聖徳太子一家の生活の水源だったされている。当時としては大変珍しい、全ての妻（一夫多妻制で、太子には4人の妻がいた）とその子供達、一族郎党がこの土地に住み、太子コロニーと呼ばれる生活をしていた所である。よって、のちに、山背大兄皇子が殺されたとき、23人と言われている、家族全員が殺されている。よって、太子の直系の子孫は残っていないのだ。=4面上段に続く

= 3面「斑鳩」から続く

また、もう少し先に、前述した法起寺があり、これもユネスコ世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」に含まれ、斑鳩パッケージとして訪ねてみると良い。

6世紀の倭国の息吹や願いを込めた建造物や仏像に魅せられた。しかし、同時に、歴史はその生臭く血に汚された運命を隠したまま、何食わぬ顔をして、我々の訪問を静かに受け入れている。それは、京都や東京より遥かに奈良に多く残

されている。それだからこそ、次の訪問は、阿修羅像のある藤原不比等が建立した興福寺や、鑑真和上の唐招提寺や、大仏様(毘盧舎那仏)の東大寺へ行ってみたいと思えないと思う訳だ。勿論、正倉院も忘れてはならない所でしょう。行かねばならぬ所がいかに多いことかと思わずにはいられない、奈良であった。

定年後を楽しむ時の、旅の行き先の一つに奈良を加えられてはいかがでしょうか？ (完)

広げよう 50 会の絆



箱根駅伝、今年は総合8位 みなさま ぜひ応援を

2011年3月11日に東日本を襲った大災害で日本中が悲しみの中、2012年の正月も箱根駅伝応援で年を明けました。わが中央は全日本大学駅伝で5位に入り、シード権を確保しました。受けて箱根では、今年こそ優勝、少なくとも上位をと大いに期待しましたが、残念ながら往路12位、復路7位、総合8位という感動するほどの結果にはなりませんでした。

50会は例年と同じく「うたゆの宿」前での一泊しての応援、11名の参加でした。遠く新潟から樋浦さんが初参加してくれました。例年のことですが、今年も参加者の宿を確保することに難渋しました。なんとか、うたゆの宿で5名分の宿泊を確保できましたが、残りは昨年と同じく小田原「万葉の湯」まで下り、翌朝一番で応援現場に戻るという不便をおかけしました。来年こそ、宿泊場所を何とか確保したいと各方面に打診しているところです。50会の仲間、箱根の正月、宿泊所を提供して頂ける方をどうかご紹介いただければと存じます。

今年は我々50会の会員もほとんどが還暦です。そろそろ第一線を退きセカンドライフに突入する方も増えることでしょう。正月は、どうか母校の箱根での奮闘を応援に出かけるという選択をお願いします。

「絆」は50会にも用意されていますから。

文・山井俊昭

命に寄せて

山井会長の箱根駅伝応援記にもあるように、気が付けば私たちがとうとう還暦か、それに近い年齢に達してしまいました。私自身はそんな実感はあまり無いのですが、髪の毛、肌、お腹だけは時間の流れを正直に物語っているのだなど、鏡の前で少し寂しい感じがしています。私たちが大学生だった昭和

広報部会・山下史雄

四十年代。思い出してみてください。その頃、自分は、あなたは何を考えていたのか。私の記憶は既に曖昧になってしまいました。夢を胸に抱いて頑張っていたことだけは確かではないかと思えます。ベトナム戦争、石油ショック、ニクソンショック、公害と、いろいろ問題はあったものの今と比べてどうだったで

しょう。現代人も頑張っています。そのころの私たちが置かれていたのではないかと。私たちがより上の父母・祖母世代はそうした見方を否定こそしませんが、戦争で明日をも知れぬ命と今の時代とでは、そもそも比べものにならないということでしょうか。ただ、年間の自殺者が今な

お三万六百人を超える現代はどう捉えればいいのか。昨年、震災がありました。死者・行方不明者は一万九千人(三月十日現在)と伝えられています。それに加えて、三万人を超す人たちが毎年自ら命を絶っている。これは何なのか。考えずにはいられません。

▲応援に駆けつけたメンバーたち。より多くの参加者を期待